

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	つくしんぼのグループホーム唐津
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	佐賀県唐津市和多田大土居 2番35号
記入者名 (管理者)	多田 英治
記入日	平成 19 年 12 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の企業理念があり、それを基本とした地域密着型グループホームの理念は、別途作成して朝礼にて唱和している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を管理者、職員が共に意識し合いながら、話し合っ実践が理念に基づいたものとなるよう日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>散歩時とか近隣の方々とご挨拶する際に会報とかでしていただけるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的なつき合いができて介護等の相談があれば話を聞き気軽にホームへも立ち寄ってもらえるように声かけしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の駐在員、老人会会長へ地域の行事等を確認し参加に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じ何か役に立てないかを話し合い、取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価というものに関心を持って改善できることはスピーディに行なう事で取り組みやすくなった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の参加も徐々に増えつつ貴重な意見も頂いて今後活かすようにサービス向上に向けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課や福祉課に訪問し解らない事柄や相談し情報交換を行なっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族においては案内等を差し上げ何かあれば話し合いが必要な方には十分な理解をしていただき活用できる体制を取る。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がTVや新聞等で問題が出た時は朝礼時やミーティングで話し合いをして防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を始め契約書を一緒に読み十分な説明をし理解していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見書箱を設置し誰でも記入出来るようにし、それらの要望等に沿って行けるように行っている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	特に面会時間の設定は無く何時でも良いので家族は都合の良い時に来訪されています。その際、定期的な報告と実際利用者と逢われ家族から見て変化はないか等聞いています。日々の状況、健康状態について報告しています。又、イベント時の状況写真と金銭出納明細を送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の確保、向上の為に家族等の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かすために玄関に意見箱を設置し又、意見・不満・苦情等があればミーティングを行い検討し対応をしていく。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況や日々のサービスの実情を知っている現場の職員の意見を十分に聴き、活かしていく為、ミーティングや日頃の口頭でのやり取りで職員からの要望・提案には出来るだけスピーディに対処している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	希望休を確認しシフトを作成するが多忙な時間帯には変更してもらい人員配置をしている。いつ緊急呼び出しがあるかわからない旨を伝えてあるのでTEL等は早めに出て対処できるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つこと事を重視し、配置異動は行っていない。やむ得ず職員が交代する場合は、利用者様の動揺を抑える為に最少にするための検討を行い、関係者やケア継続のため馴染みの担当者を2名で対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、毎年年間計画の中に2ヶ月毎に社内研修を取り入れて行なっている。又、社外研修については職員の立場、経験や習熟度の段階に応じた学びの機会を設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間での交流会や相互訪問を積極的行なっている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在は年4回ほど職員も含め本社と一緒に日頃のストレス解消が出来るように会合を持ち同じ悩みを持つ同士の良い解決策をを創り上げている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員間でのリーダー制や各職員が向上心を持って努められるように口頭や書籍類をいつでも見れるように提示してある。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様とのコミュニケを取りながら希望の持てる話題や今までの生活状況の把握を十分に聞くことで同じ内容で話が出来る事が安心にも繋がる事なので初期は本人の安心と関係作りを最重点にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族からの相談時には困っていることの重要性を把握する為にお互いが十分に理解できるまで話し合いを行ない不安なことや他に気付いた点がないか尋ねて解決できるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状況把握と御家族からの要望に沿い、何が必要かを見極め、事業所として出来る限り対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様が馴染むまでは色々誘導するのではなく御家族とも相談し自ら率先していける事柄から徐々に行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員間では利用者様を自分の親と思い接し方も親しきの中にも礼儀ありでこころで接していくことと教えていただくことも多いので共に過ごし、学び、支えあうこととしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況等を何か異常があれば直ぐにでも連絡しご家族と共に解決できるようにしている。又、イベント等の案内もご家族に出し参加して頂き共に過ごす時間づくりを行なっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様とご家族の間を取り持ち何かあれば直ぐに連絡し要望を聞き取り常にご家族と連絡が取れる事で安心して頂いている又、イベントとか行なった時は写真で現状報告を各ご家族へご案内をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の中で馴染みの方々の話が出て逢いたいとかになるがTEL等で話をしていただき安心していただく。又、面会や外泊についてもご家族の了解のもと関係が途絶えないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	始めは皆さんどんな方か解らず輪に入りにくいですが職員も一緒に参加し話でお互いに理解が出来友達輪が出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の方々には当方の会報等を送り何かあればいつでも気軽に連絡くださいと又、イベント等のご案内も参加していただけるよう案内状を送付している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員へ利用者本位の原則を繰り返して説明すると共に定期的に利用者へお尋ねしケアプランへ反映しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援しながら、プライバシーに配慮しつつ常時情報収集に努めています。又、他職員も把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の暮らしの流れに沿って支援しながら、常時情報収集、特に本人のできる力・わかる力を発見していくことに努めています。又、他職員も把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に本人へ意向の確認、家族来訪時要望等の確認を行いケアプランに反映しています。また、本人や本人をよく知る関係者が気づきや意見、アイデアを出し合い、話し合った結果をもとに介護計画作成に全員が参画できるよう検討中である。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	終了期間前にケアカンファレンスを行い、目標達成状況を確認し臨機応変に見直しを行なっています。又、現状に即したケアプランは柔軟に作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人別に行い、日々記録しています。記録を基に、1日3回引継ぎを行い、利用者情報を共有し自立支援、予防介護に向け支援を行なっています。又、日々の記録を根拠にしながら介護計画の見直しに活かして生きたいと思っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様や家族の要望で買物や病院送迎や散歩等の支援及び料理での参加にも声かけし一緒に出来る事に参加して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や文化交流を含め参加し利用者様の意欲を出せるように勤めている。そのために地域資源と協働して行けるよう努力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他同業者との交流会に参加し必要に応じて協力を得対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時に地域包括センターと協働できるようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今回、本人やご家族の要望と同意、納得のもと個人病院で受診していた利用者様については済生会病院へ転医させて頂きご家族の方々も安心されており継続して受診できるように支援を行なっている。原則的には、これまでのかかりつけ医を基本としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	その都度担当医へ事情を説明し指示を仰いでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	12月より訪問看護との連携が出来、健康管理のアドバイスも受け日常の健康管理や医療活用の支援を行なっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院状況では定期的に見舞いに行き現状把握をし情報交換を行い早期退院へ向けて連携を取っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	担当医との話も交えこれからのケア方法等も説明しご理解いただいた上で対策を取り共有化していけるような体制作りを進めている。。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	安心と安全を確保しよりよく暮らすために、対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを職員皆で率直に話し合い、家族や訪問看護事業所と連携を図りながら取り組む準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当所においての生活パターンやクセの理解を十分に理解して頂いて移動して頂く。又、移動先でも安心して生活出来るように情報交換を密に提供していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様の誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことが利用者様の尊厳と権利を守るための基本であり必須と考え、常にプライバシー確保について話している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様が何をしたいのかを理解した上でどのようにされたいかを確認することで自分で納得され行動出来るように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様第一優先で考えており、日々の暮らしがその人らしいものとなるように心がけて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の心地よさ、個性や希望を優先させて、現在は、訪問美容室を望む利用者や美容室へ行きたいと望まれる利用者等、それぞれのご希望に応じた支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備には利用者様と一緒に飾りつけとか準備を行っている。また、楽しい食事となるように一緒に味わいながら楽しいものとなるよう支援している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様が自宅にいる時と同様になるよう出来るだけ好みの物をそろえるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常時オムツ使用者はいないがこれからのことも考え今までの習慣に照らし合わせ尿意を感じる時間を見計らい声かけしていくことで可能な限りトイレで用を足す支援や気持ちよく排泄するための工夫を今後も継続して行く。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日ごとに入浴者を明記してはいるが利用者様の気分とか体調に合わせて入浴して頂いている。(臨機応変に行なっている)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の状況により昼寝したい時はして頂き、環境や生活の過ごし方、関る側が利用者本人のリズムを乱していないかを確認しながら、利用者様の希望でゆっくり出来るようにしている又、馴染みの布団を使用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴の中で活かされていた部分を生かしカラオケ・書道・散歩・買い物・炊事等を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時は各人で支払いが出来るように支払い前に本人へ渡し支払いをして頂くように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気具合にもよるが希望に添って日光浴や散歩や買物等職員と行動を共にしながら生き生きと過ごせるよう工夫している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブを利用して唐津の名所巡りやイベント等に一緒に支援してご家族にもイベント等のご案内をし参加できるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELはもちろんの手紙についても返事を書きますかと声かけし本人の要望を重視している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問は受け付けている来所されるときは個室または広間にて皆さんも一緒にゆっくり過ごせる様に工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権を守ることがケアの基本との認識を持ち「どんなことがあっても拘束は行わない」という姿勢で身体的束縛に関するマニュアルを作成してケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に日中は鍵はかけておらず、常にオープンの状態である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者様の見守りを重視しており、離席する場合は報告・連絡を密に行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に応じてコレは危険だという物を各職員間での情報の共有化を図っていくことで安全な保管・管理していく事で御家族も安心されてる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員も利用者様の状況を把握し緊急時の対策を朝礼・ミーティング時に話し合いを行い事故防止に努めている。また、ヒヤリハットの報告や危険への気づきを収集して事故防止に活かしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	本社との合同研修にて勉強会を行なっている。又、ミーティングにおいてもシュミレーションし対応策の勉強しており訪問看護事業所からの指導も得ている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一人ひとりの利用者の状況を踏まえた昼夜を通した災害時の具体的な避難策について検討し、地域の避難場所は掲示と共に避難方法を明記している。地域の方にも運営推進会議の中でも協力体制をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	担当医との話も交えこれからのリスク及びケア方法等にも説明しご理解いただいた上で対策を行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様の日々のバイタルチェックや健康チェックを行い職員間の情報の共有化を徹底させて、早期対応に結び付ける行動が日常的に取れるような指導を関係者等に依頼して実行できるよう対策をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアカンファにおいても服薬の大事さを話し合い副作用についても担当医・看護師からの情報を元に変化の確認に努め、日常の記録を医療者に情報提供している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様の排便の様子を確認し自然排便を促すため工夫に努めている。一人ひとりの状況に合わせて繊維の多い物や水分補給や体操も取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各利用者ごとに毎食後口腔ケアを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、食事分量を主食と副食に分けて記録して状態に応じてバランスをとるようにしている。また、職員全員が知識や意識を持ち、利用者様を支援できるよう努める。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策マニュアルを作成して職員にも常に感染症予防については理解してもらい利用者様と共に予防対策を行っている。(手洗い実施・嗽実施等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材については賞味期限切れは廃棄し器具に関しては調理終了と共に除菌をし安全に管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口には和風の看板を掛けたり花壇を設け季節感が解るようにして来所される方にも和みが出るように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型の住居で共同スペースや各居室も広く採光も十分にゆっくりとした空間である。従来の生活観があるように花を飾り季節感も肌で感じられるように工夫をしている。広間にはソファを置きくつろげるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広間にてくつろがれるが縁側にて日向ぼっこをされたり友達同士で輪になり昔はなしに花が咲いていることが多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は広く、プライバシーを大切に安心して過ごせるスペースとなっている。居室には、今まで使用していた馴染みのものをそれぞれお部屋で使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や臭いについては日に数回窓等を開け空気の入替えを行い室温に関しては温度計・湿度計にて確認しエアコンにて調整を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の自立を目指し要所に手すりなどを設けて行動に支障がないように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	広間には日捲りカレンダーを設置し利用者様により日付変更等して頂いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者様と一緒に草取りとかベランダに椅子を持って出て日向ぼっこをしたり洗濯干しに活用して頂いている。又、夏には花火大会やバーベキューなどで地域住民との交流もあり、皆さんと一緒にベランダにて楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

等グループホームにおいては、利用者様とのコミュニケーションを大事にしており職員も家族の一員となり日頃より利用者様の今までの生活感の話や教えていただくことが多く職員の中には子供みたいに接してみたり甘えてみたりと日々愉快地に生活できているのではと考えております。